



体育館の床板の剥離による事故防止について

—子供たちを守るために—



令和7年5月



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

1.はじめに

体育館の床板の一部が剥離し、腹部に突き刺さり被災者が重傷を負った事故をきっかけとして、消費者庁の消費者安全調査委員会（以下「調査委員会」）が、消費者庁の事故情報データバンクに寄せられた事例及び報道情報を収集したところ、平成18年から平成27年までの間に同種又は類似の事故が7件発生していた。この中には、木片が内臓に達した事例もあった。

調査委員会は、消費者安全法第23条第1項の規定に基づき、平成27年度より事故等原因調査を進め、平成29年5月に事故等原因調査報告書（以下「消費者庁報告書」）をとりまとめた。そして、消費者安全調査委員長より、文部科学大臣に対し意見が提出された。

それを受け、文部科学省は、「体育館の床板の剥離による負傷事故の防止について（通知）」（平成29年5月29日付29施企第2号）等を発出し、学校設置者に対して体育館の床板の剥離による負傷事故の防止をお願いしているところである。

平成18年～平成27年までの体育館の床板の剥離による負傷事故の事例

発生年	竣工又は床板の全面改修から事故発生までの年数	負傷者の活動	負傷部位	入院日数
平成18年	16年	バレーボール	胸部	1週間～10日程度
平成23年	8年	バレーボール	胸部	7日間
平成25年	2年	バレーボール	腹部（内臓裂傷）	27日間
平成25年	26年	バレーボール	腹部	4日間
平成26年	31年	バレーボール	腹部	12日間
平成27年	25年	フットサル	背中（内臓裂傷）	24日間
不明	不明	バレーボール	左大腿部から下肢	不明

※消費者安全法第23条第1項の規定に基づく事故等原因調査報告書【概要】

—体育館の床板の剥離による負傷事故—（消費者安全調査委員会 平成29年5月29日）より作成

しかし、令和6年12月から令和7年2月にかけて、目視による日常点検等を実施している学校においても、体育館の床板の剥離（ササクレ・ひび割れ・欠け等による剥がれ）等による負傷事故が相次いで発生している。

これらの事故を受け、文部科学省において、同様の事案の再発防止と体育館の安全確保に万全を期すため、本手引きを作成した。

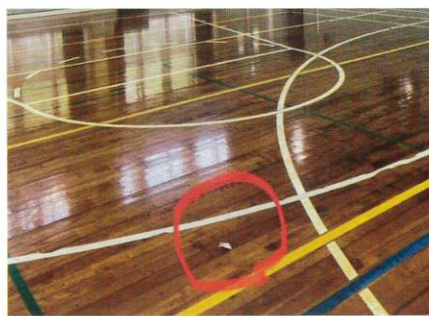
2. 近年の体育館の床板の剥離等による負傷事故について

Q 近年の体育館での負傷事故にはどのようなものがあるか？

沖縄県内の公立小学校 (令和7年2月発生)

バレーボールで飛び込んだ際に、剥離した床板が左腰部に刺さり負傷する事故が発生。

(木片寸法：0.5cm × 5cm)



群馬県内の公立中学校 (令和7年2月発生)

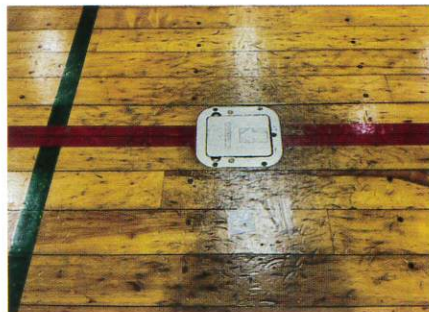
バレーボール部の練習試合中、飛び込んだ際、床板の継ぎ目がシャツにかかって剥離した床板が、鋭角の形状で右腹部に刺さり負傷する事故が発生。

(木片寸法：1.2cm × 30cm)



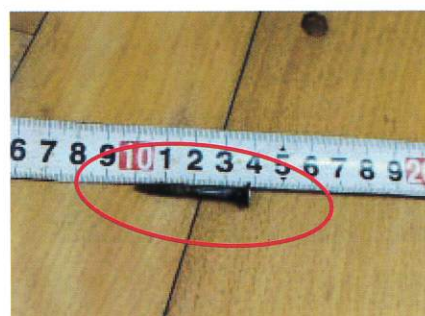
東京都内の公立中学校 (令和7年1月発生)

体育の授業中、滑りながら床に座った生徒の臀部に剥離した床板が刺さり負傷する事故が発生。(支柱の仮置きで床板が傷ついていた)



宮城県内の公立小学校 (令和7年1月発生)

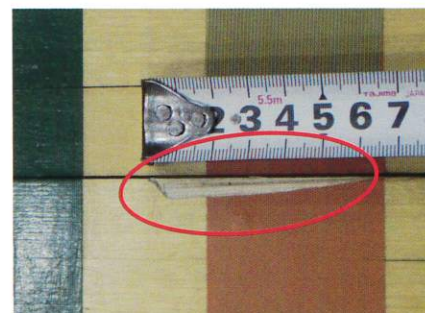
バレーボールの部活動中、生徒が滑り込みをした際、床板から露出していたねじ頭により膝に裂傷を負う事故が発生。(老朽化により、木栓が外れ、ねじ頭が露出していた)



東京都内の公立小学校 (令和6年12月発生)

学校開放利用団体の活動中、団体に所属する児童の臀部に剥離した床板が刺さり負傷する事故が発生。

(木片寸法：7cm × 0.6cm)



- ① 水拭き及びワックス掛けを実施していない学校でも、事故が発生している。
- ② 築10年と比較的に新しい学校においても、事故が発生している。
- ③ 目視による日常点検を実施している学校においても、事故が発生している。



特徴

3. 体育館の床板の点検について

Q 効果的に床板を点検するにはどのような手法があるか？

日常点検を実施していた体育館においても、負傷事故が相次いで発生していることから、体育館の状況を踏まえ、床板剥離を引き起こすササクレ・ひび割れ・欠け等の有無を定期的に詳細な点検を実施する必要がある。

例えば、目視による点検を行う場合も、体育館の床面から近い距離で、ゆっくりとしたスピードで、確実に確認を行う方法がある。

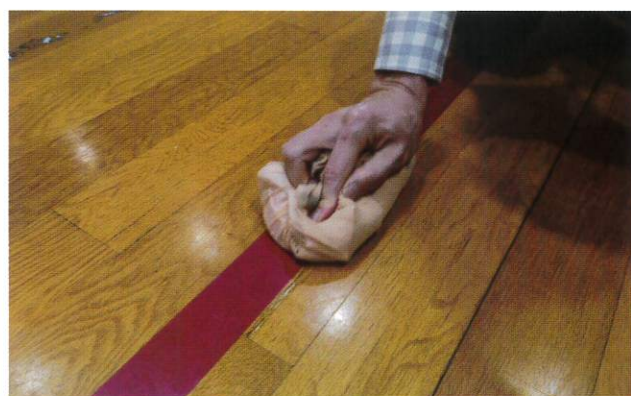
(消費者庁報告書では「目視の場合は、担当範囲を定める、又は複数の目で見ると、目視だけではなく、ストッキングをかぶせたモップ等を使用する等があり得る」と記載されている。)

柔らかい布を使用した点検方法の例

目視と併せてストッキング等の柔らかい布を使用し、床板の長手方向（板目の長い方）に両方向から満遍なくふき取りを実施し、危険なササクレ・割れ・欠け等の破損等により、ひっかかり等がないか確認する触診による点検方法もある。



担当範囲を定め、近い距離で点検を実施している例



ストッキングや柔らかい布等を用いた点検の例

参考事例 新技術を活用したロボットによる点検方法の例

- 目視点検や触診点検でも見落としやすい床面のササクレやササクレにつながる小さな割れや欠けを効果的かつ効果的に検出するロボット等の新技術も、近年、開発されている。
- 作業人員の削減、Webアプリケーションや自動生成された図版による損傷個所の位置情報把握が可能になり、効果的な点検の実施が可能。
- また、点検範囲の網羅性の確保、点検基準の統一化といった、効果的な感知・点検の実施が可能。



ロボットを用いた撮影・点検の様子
※ (一社) 生涯スポーツ社会創成研究所の作成資料より引用

4. 体育館の床板の応急処置・簡易補修について

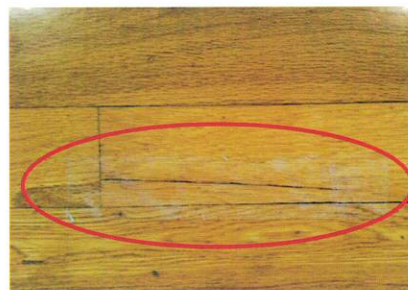
Q ササクレが見つかった際の応急処置・簡易補修にはどのような手法があるか？

床板に劣化や不具合が生じた場合には、まずは専門業者に相談することが重要だが、不具合の度合いが軽微であれば、原則として、部分補修による修復が可能。

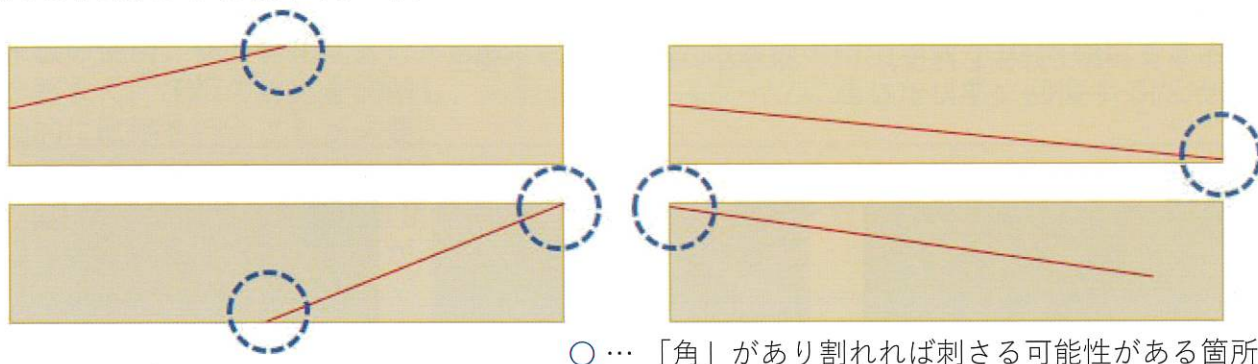
① 床板の傷、割れ等を発見した場合の応急処置の例

傷、割れ等を発見した場合は、**危険個所の使用禁止**または**テープを貼り応急措置**を行い、**できるだけ速やかに床板の専門業者に相談**すること。

応急措置には、ライン用テープなど**粘着力の弱いものを使用**する。色付きのテープは不具合箇所の確認がしやすい。**ガムテープは、剥がす際に塗膜や床板の表面材まで剥がしてしまう恐れがあるため使用しない。**



対応が必要となる割れ方の例



○ … 「角」があり割れば刺さる可能性がある箇所

対応が必要となる傷の例



状態：ササクレている



状態：凹みの淵が尖っていて指が引っかかる



状態：凹みの角が床面より尖っている



状態：過去の修復箇所がざらざらで指が引っかかる



状態：深く凹んでいる

※（独）日本スポーツ振興センターの作成資料より引用

POINT



- ・体育器具や重量物の移動、ラインテープ除去等により外力が加わると、床板の損傷に繋がる場合がある。
- ・移動式バスケットボールゴールやピアノ等を移動する際は適切な養生等を行うとともに、テープ除去はゆっくりと行うなどの配慮が必要。

4. 体育館の床板の応急処置・簡易補修について

Q ササクレが見つかった際の応急処置・簡易補修にはどのような手法があるか？

② 床板の簡易補修（パテ埋め補修）を行う場合の手順例

軽微で部分的な不具合であれば部分補修で対応可能であり、パテによる隙間埋め補修（下図）、接着剤による割れ・ササクレ補修がある。



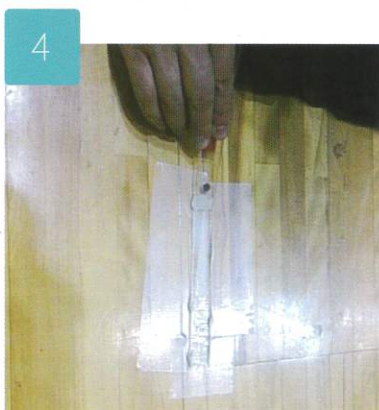
1 剥離部分のササクレを
カッター等で除去した後、
サンドペーパーで平にする



2 剥離部分以外にパテが
つかない様にテープで養生



3 床板用パテを充填する



4 ヘラで表面を整える



5 パテ硬化後、
サンドペーパーで平にする



6 補修テープを貼って
修繕完了

※参考：パテ埋めによる簡易補修の手順は、動画でも解説されている

<https://www.youtube.com/watch?v=Afip9l1jG-s>

（監修）公益財団法人 日本スポーツ施設協会 屋内施設フロア一部会

※写真は、公益財団法人日本スポーツ施設協会の作成資料より抜粋



5. ササクレによる事故防止について

Q 事故防止のために、どのような頻度・内容の維持管理を行う必要があるか？

事故防止のためには、適切な維持管理が必要。また、体育館の床板に劣化や不具合が生じた場合には、不具合の状況に応じた補修又は改修が必要である。

どのような改修が必要かは、専門業者の調査・診断等により対応策を決めることが重要である。

① 定期的な維持管理（ポリウレタン樹脂塗装）の実施

床板の状況に応じて、**2～3年でポリウレタン樹脂塗料の重ね塗りを行うことが重要。**

（ワックスが塗られている場合、ポリウレタン樹脂塗装の重ね塗りができない場合があるので、必要に応じて専門業者に相談すること。）

また、体育館の利用状況や環境により床板の劣化状況が変化するほか、不具合の発見が難しい場合もあるため、**床板の専門業者等による、調査・診断（定期点検）等を踏まえ、詳細に検討することも重要。**

② 長期的な改修計画の策定

床板の使用に伴う劣化は避けられないことや**床板の塗膜の耐用年数が10年程度**であることを踏まえ、床板の劣化を抑制し、床板の性能をスポーツに適した状態に回復するためには、計画的に改修を行うことが必要。

体育館の所有者は、利用状況を勘案し、2～3年でポリウレタン樹脂塗料の重ね塗りに加え、**10年で全面サンダー掛け後の再塗装、20年で床下地を含む床全面取替え**といった中長期的な改修計画を立てる必要がある。

日常点検・定期点検により塗膜の劣化（剥がれ、摩耗による床板表面の露出・汚れの沈着など）が見られる場合や、専門業者による判断により改修や修繕が必要とされた場合には、計画を見直す必要がある。また、改修の際は、**ササクレ発生の防止加工がされた床板を使用**することも有効。

取組事例 床シートを用いた体育館床の改修事例

兵庫県神戸市の取組事例

- 近年発生した床板剥離による負傷事故や維持管理の容易性を踏まえ、床シート（6mm厚程度のもの）を採用（右図）。
- 事故防止のため、市内の学校の体育館の改修を行う際に、床シートへの改修を行う方針としている。
- ボールの跳ね方などの機能面については、利用者から問題等は報告されていない。
- 令和5年に5校、令和6年に13校の改修工事を実施している。



※床シートを用いた体育館でも日常点検を適切に実施し、不具合を発見した際は速やかに専門家に相談すること

6. 維持管理のポイントについて

Q：その他、維持管理において、どのようなポイントに気を付ける必要があるか？

↳ 消費者庁報告書を踏まえ、体育館の床板の剥離による負傷事故の防止対策をより一層推進するため、維持管理における下記の取組等を適切に実施していただきたい。

ポイント1 適切な清掃の実施（水拭き及びワックス掛けの禁止）

日常清掃と特別清掃

体育館の床板は、日常清掃及び特別清掃により清潔に保つ。特別清掃は日常清掃では取りきれない汚れを除去するために数か月に一度行う。

水分の影響を最小限に

水拭き及びワックス掛けは、床板等の不具合発生の観点からは行うべきではない。やむを得ずワックスを使用する場合には、水分の影響を最小限とするよう注意する。

ポイント2 日常点検・定期点検の実施

① 点検の実施と記録



日常的、定期的な点検を行い、その実施した記録を保管する。点検記録表を作成し、点検項目及び方法について実際に点検を行う者に分かりやすく周知する。

② 不具合発見時の対応



床板等の不具合を発見した場合には、速やかに応急処置又は補修を行う。必要に応じて専門業者に相談して補修又は改修を行う。

③ 記録の保管



不具合を把握した場合には、写真を撮影する等の方法で不具合の内容を記録し、不具合の位置や箇所数とともに記録し保管する。

不具合を把握した場合には、写真を撮影する等の方法で不具合の内容を記録し、不具合の位置や箇所数とともに保管する。

ポイント3 維持管理を外部委託する際の適切な仕様の設定

仕様書での明確化

体育館の維持管理を外部に委託する場合には、適切な清掃の実施や点検・記録の保管について仕様書で定めるなどして、受託者に対し同様の対応を求める。

資格保有者の配置

受託者には公認スポーツ施設管理士資格※を有する者がいることを条件とするなど、維持管理の質を保つための要件を設定する。

※ 公認スポーツ施設管理士養成講習会（主催：公益財団法人日本スポーツ施設協会）で指定科目を受講し、試験に合格した者が取得できる資格

ポイント4 長期的な改修計画の策定と見直し

① 計画策定



体育館の床板の長期的な改修計画を策定する

② 改修実施



計画に基づいて体育館の床板の改修を行う

③ 記録保管



継続的に記録を参照できるように、補修・改修の記録を保管する

④ 計画見直し



記録を基に必要なに応じて計画を見直す

ポイント5 施設利用時における注意事項の利用者への周知

報告書を参考にして施設利用時の注意事項を作成し、体育館の利用者の目に付く場所に掲示するなどして、利用者に対して分かりやすく伝える。また、利用者が不具合を発見した際の連絡先を明記し、速やかに対応できるようにする等の工夫も有効である。

